

# みやもとだより

第19号 平成29年7月発行

季節のおまつり

## 塩竈みなと祭

仙台より仙北線に乗換え本塩釜で降りると、一段高い丘の上に海を見据えるように陸奥国一之宮鹽竈神社と志波彦神社が並んで鎮座している。午前十時頃それぞれの宮神輿が表坂二百余段の急な階段を御同列で下りてくるところから祭りは一気に熱気をおびてくる。

鹽竈神社は古から海上安全、武運長久の神をまつる神社として有名で、祭りは船の安全・豊漁を祈願して執り行われてきた。神輿の海上渡御は、港町塩竈の産業の発展と、戦後の疲弊した市民が元気を取り戻すようにとの願いを込めて、鹽竈神社で昭和二十三年から海の祭典として始められた。現在は志波彦神社の神輿も加わり、七月の第三月曜日「海の日」に行われている。

神輿は白丁鳥帽子の担ぎ手によって、道中を練りながら港に向かい、昼前に西埠頭に着く。鹽竈神社の神輿は鳳凰丸に、志波彦神社の神輿は龍鳳丸に奉安される。両船とも八角形の巨大な神輿を奉安するに相応しい御座船である。鳳凰丸の豪華絢爛な姿はデザイン的



陸渡御中の神輿

ある辰に因んで竜頭があしらわれている。

昼十二時、両御座船は打ち上げ花火の合図で発船する。五色の吹き流しや旗指物で装飾された供奉船約百隻を従え、湾内をゆっくり周遊したあと日本三景松島の島々をぬつて海上巡行する姿は、青い海と相まって一大絵巻を見るようである。東日本大震災のあと、祭りが自粛されたところが多いなか、中断することなく実施され被災地復興の象徴となつたことが評価され、ふるさとイベント大賞第一回「内閣総理大臣賞」受賞の栄誉に輝いた。

(写真・文 宮本卯之助)



御座船の鳳凰丸

この国の佳き伝統とともに  
宮本卯之助

## 町名改正と祭り

浅草唯一の小高い丘に鎮座し、広重の浮世絵にも出てくる待乳山聖天宮（創建五九五年）の一帯は、隅田堤の桜を遠望する江戸第一の景勝地であった。弊社はその名に由来する聖天町と猿若三座で有名な猿若町にまたがって本社があつた。しかし、一九六二年に住居表示に関する法律ができて由緒ある聖天町と猿若町の町名は消滅し、浅草六丁目に変わってしまった。「公共福祉の増進に資することを目的とする」という理由で合理性を優先され、日本中の多くの歴史ある地名が無くなってしまった。あれから五〇年以上経つが、祭りは現在も殆どが旧町名で行われている。町所有の神輿や山車も分けようがないのが主な理由である。昔から向う三軒両隣と言われ、町は通りを挟んで構成されており、新しい住居表示で旧町会は分断されてしまったように見えるが、町の人びとの絆は昔どおり続いている。（文・宮本卯之助）

# HIBIKUS浅草ベースメント開業

太鼓むかしばなし

まつた。「公共福祉の増進に資することを目的とする」という理由で合理性を優先され、日本中の多くの歴史ある地名が無くなってしまった。あれから五〇年以上経つが、祭りは現在も殆どが旧町名で行われている。町所有の神輿や山車も分けようがないのが主な理由である。昔から向う三軒両隣と言われ、町は通りを挟んで構成されており、新しい住居表示で旧町会は分断されてしまったように見えるが、町の人びとの絆は昔どおり続いている。（文・宮本卯之助）



むようにお見えになるなど、長きにわたり  
宮本スタジオをご愛顧頂きましたこと深く  
御礼申し上げます。

先月開設したHIBIKUS浅草ベースメントは、大正時代に神輿奉安庫として建設された場所でした。五代目卯之助が当時神輿を置いた展示室を本社内に構想しましたが、先代である四代目の反対を受け、やむなく地下に作った部屋だったようです。その後、店舗の改築をしてからは倉庫として太鼓胴や平釣り太鼓などが一時的に置かれおりました。

和太鼓、横笛や民謡などの教室が開講し、多くの生徒の皆様に親しんで頂きました。閉業の間近には、生徒の方々がスタジオとのお別れを惜し

神輿むかしばなし

今回は神輿の屋根に注目。神輿の屋根の頂きには瑞鳥と言われる鳳凰が金色に燦然と輝いています。その下には、各町の名前が書かれた将棋の駒が付いています。

「駒札」と呼ばれる将棋の駒は、いつ頃から付ける様になつたのか諸説あります。が一説には、かつては背の高い江戸型山車などに付けられていましたが東京では曳けなくなり、代わって神輿にも用いられるようになつたそうです。他の神輿と識別するための札とされ、神社の本社神輿や町神輿が複数ある地域ではよく見られます。本社神輿には神社名などの文字が入り、町神輿には町名が書き入れられ、その神輿が何処のものか駒札を見てすぐに判別できます。

としても長年ご鼎負頂いた宮本スタジオからヒビカス浅草ベーグルメントへの引越しという大きな節目もあり、忙しい六月となりました。二〇一四年に横浜に一号店を開店したヒビカスとしては二店舗目。「響く」と英語の「us（私たち）」を組み合わせたこのブランドの下に弊社としての伝統芸能の普及事業を統一し、新たな舟出となります。しかしどこかに宮本スタジオを遺したいと、地下へと続く手摺りは旧スタジオのものをそのまま移設。名称は変わつても、二十四年の歳月を受け継いで時を重ねていきたいと思いを込めました。

統一し、新たな舟出となります。  
しかしどこかに宮本スタジオを  
遺したいと、地下へと続く手摺  
りは旧スタジオのものをそのまま  
ま移設。名称は変わつても、二  
十四年の歳月を受け継いで時を  
重ねていきたいと思いを込めま  
した。

HIBIKUS浅草  
ベリスマント開業

太鼓むかしばなし

この度、宮本スタジオは新たにHIBIKUS浅草ベースメントとして、宮本卯之助商店本社地下一階に移転する運びとなりました。今から二十四年前に地上四階建の宮本スタジオを設立、当初より



HIBIKUS浅草ベースメント スタジオへの階段

駒の材質は檜材が多く、時に檜材も用いられます。三か所に穴が開けられ、麻紐で鳳凰の足と飾り紐に結わえられます。文字は江戸文字がほとんどで、エナメルなど水や雨にあたつても落ちにくい塗料で書かれますが、彫刻したものもあり文字が浮き出たような立体感ができます。

株式会社宮本卯之助商店  
企画広報室  
〒111-1003五  
東京都台東区西浅草1-1-1  
電話 03-3844-1141  
[www.miyamoto-unosuke.co.jp](http://www.miyamoto-unosuke.co.jp)

代表取締役社長  
宮本芳彦

代表取締役社長  
宮本芳彦

統一し、新たな舟出となります。  
しかしどこかに宮本スタジオを  
遺したいと、地下へと続く手摺  
りは旧スタジオのものをそのまま  
ま移設。名称は変わつても、二  
十四年の歳月を受け継いで時を  
重ねていきたいと思いを込めま  
した。

などに古材を使用し、歴史を感じる空間にリニューアルしました。新しいこの場所も皆様に愛される場所になるよう一層精進して参ります。

いよいよ梅雨明け間近。海の  
日の前後から熱い祭の季節が  
戻ってきます。今回ご紹介した  
塩竈みなど祭をはじめ、神奈川